

鶴岡市には、町内会や自治会など463の単位自治組織と、33の広域コミュニティ組織（コミュニティ振興会、自治振興会等）があり、地域のまちづくりの活動主体として取り組んでいます。

市では、持続可能な組織づくりや担い手の育成促進を重点課題として「第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画」を策定し、市民の皆様、住民自治組織、関係機関・団体と力を合わせて、安全・安心で、明るく心豊かに暮らせるように取り組んでいます。

この「まち活通信」では、地域のコミュニティで取り組まれている活動の工夫や独自の取り組みを紹介しております。今回は、子供に対する記念事業、学校と連携した防災の取り組み、地域資源を活かした地域づくり、関係団体と連携した地域づくり事業の取り組みについて紹介します。

- 紹介する団体
- 1.新形西町内会
 - 2.由良自治会
 - 3.越沢自治会
 - 4.長沼地区自治振興会

鶴岡地域

単位自治組織

地域の大人だけではない 記念事業を

新形西町内会 会長 伊藤 博



新形西町内会は、城下町鶴岡の城址北部に位置する閑静な住宅街にあります。

元々は、新形町内会で東、中、西と分かれていましたが、昭和46年に新形東公園ができたのを機に「西部ブロック」といわれていた地域の機運が高まり、新形西町内会として昭和48年7月に設立されました。町内会では、安全安心で快適な生活を守るために環境整備事業や、夏祭り・芋煮会など住民相互の親睦を図る事業を行っています。

令和5年は、町内会設立50周年の節目にあたり、町内会の設立や組織づくり、事業の振興に努めた先人達の足跡をふり返ることなどを目的に、50周年記念式典並びに祝賀会を実施しました。

自分のふるさとを知る「親子学習会」の実施

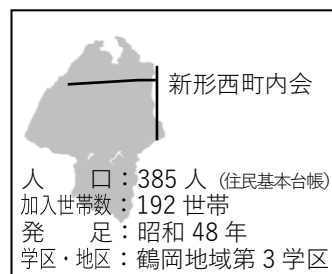
50周年記念事業として式典、祝賀会が企画されていましたが、参加者は役員など地域の一部の大人のみに限られていました。もっと地域のみんなに寄り添った記念事業を行えないかという植松芳平氏（町内会名誉顧問）の提案もあり、親子を対象とした「町の歴史親子学習会」を実施しました。

町広報で周知を図り、小学1～6年生を含む親子が20人ぐらい集まりました。自由研究の題材にすることも考え、参加した子供達もいるようにした。

学習会の資料は、図書館やインターネットで調べながら作成し、地理、歴史、クイズ、新形町ができた昭和40年代の流行も載せた盛りだくさんの内容です。

自分達の住む地域の成り立ちや当時の流行を知ることができる資料であったため、親世代も共有できる話題も多く、皆で盛り上がることができました。

自分のふるさとを知るということは、他の人を大切に思う気持ちに繋がります。誰にも生まれ育ったふるさとがあることに容易に思い至ることができるからです。自分が生まれ育ったり、暮らしたりした町のことを少しでも知っておくことは、いつかどこかで人生の何かの糧になると信じてこの事業を企画しました。



町の歴史親子学習会の様子

地元の学校と連携 した津波に強い 地域づくり

由良自治会 事務局長 佐藤 一彦



由良地区は鶴岡市海岸部のほぼ中央に位置し、東北の江ノ島とも称される白山島を擁し、「日本の渚百選」と「海水浴場百選」に選ばれた由良海岸、蜂子皇子と八乙女伝説の奇石・八乙女浦等、バリエーションに富む恵まれた自然景観を有しています。コミュニティセンターを拠点として住民相互の連携と融和並びに自主活動の推進を図っており、地域の美化運動（花植）、由良ふるさとかるたを活用した青少年事業、体育・レクリエーション・交流事業である太鼓教室などを実施しています。また、令和2年7月から住民アンケートやワークショップを重ね、令和4年5月に地域ビジョン「ゆら未来予想図」を策定しました。

避難路が暗く不安があった

山形県沖地震を契機として自主防災組織の重要性が再認識されてきた中、由良地区でも自主防災組織を中心に関係団体と連携してきました。避難行動カルテの検証・課題整理を実施したり、避難路、案内表示板の点検、防災資機材の購入及び点検など、地域防災力向上のための取組みを進めています。しかしながら、由良地区は高齢者が多い地域であるため、津波を想定した避難訓練では階段の段差が大きく、また避難路が暗いこともあり、夜間の災害発生時の避難には不安がありました。

鶴工の協力で避難路に照明器具を整備

令和元年、由良自治会に防災の視点からアドバイスをもたらしていた山形大学地域教育文化学部講師である熊谷誠先生の勧めで、由良自治会、鶴岡工業高等学校の共同による「津波に強い地域づくり」の一つとして避難路に照明器具を整備するプロジェクトが始まりました。鶴岡工業高等学校電気電子科3年生の課題研究として実施することになったのです。

令和4年から実証実験が始まり、2年目には避

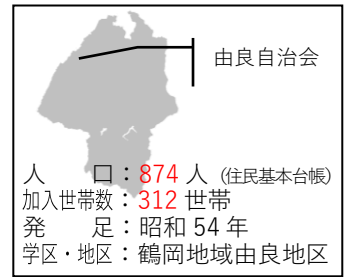
難路の登り口（最も下の部分）に太陽光パネルを使用した照明器具の取付けを行いました。ただ、樹々が生い茂り、日差しが取込みにくい場所であ

ったため、発電環境が悪く避難路の暗さは解消されませんでした。3年目、登り口にあった照明器具をより避難路の上の部分に付け直し、照明器具の個数を増やして機能を強化しました。設置された照明器具は手作りで「自治会でも簡単に交換できる」ことをポイントにした単純な構造になっています。人感センサーはついておらず、太陽光パネルで充電し暗くなると給電が行われ、照明器具に電気がつきます。様々な部品を組み合わせた照明器具は、市販の照明器具のおよそ10分の1の費用で作られていました。

安全で迅速な避難を目指して

取付けを行ったのは、電気電子科3年生の4人と指導している梅津一弘先生です。先輩達から受け継いできた活動であり、これからも地域に貢献したいという気持ちにあふれていました。

鶴岡工業高等学校の取組みによって、避難路が明るくなり地域の安心・安全につなげることができました。夜間避難時に足元を照らすだけでも避難時の不安を減らすことができます。今後は、設置場所を増やせるように鶴岡工業高等学校と連携し、生徒達の協力を仰ぐとともに、手すり等がない山際の避難路も照らしていけるよう協議を重ね、安全で迅速な避難が可能となるよう進めて参りたいと思います。



今年度取付けを行った鶴岡工業高等学校
電気電子科3年生と梅津先生

おいでよ！そばに 棚田と清水、 摩耶の里・越沢

越沢自治会 会長 伊藤 治



越沢集落は鶴岡市中心市街地から約30km離れた山間部にあり、名勝「摩耶山」をはじめ里の名水やまがた百選の「郷清水」、やまがたの棚田20選の「越沢の棚田」など豊かな自然に恵まれ、美味しいお米や在来作物の「越沢三角そば」、笹巻、山菜、キノコなど自然の恵みを活かした食文化が受け継がれています。

令和5年度「豊かなむらづくり全国表彰」において在来作物「越沢三角そば」を核とした取り組みにより、農業の生産力向上、担い手の育成、次世代へ継承、地域内外との交流創出など、大きな成果をあげて、内閣総理大臣賞・農林水産大臣賞受賞感謝の会を開催し、多くの皆様に感謝の気持ちを伝えることができました。



内閣総理大臣賞・農林水産大臣賞受賞感謝の会

越沢の将来を考える～自分達のビジョン策定～

そんな越沢にも危機がありました。

少子高齢化による人口減少や転出者が目立ち始め、いつしか集落の存続に住民が危機感を抱くようになりました。このことをきっかけに平成28年、当時配属されていた地域おこし協力隊を含めた住民有志20名で「越沢自治会活性化委員会」を立ち上げ、ビジョン策定に着手しました。手始めに中学生以上の全住民にアンケートを行い、越沢の将来について話し合いを重ねました。そして平成29年3月に「越沢活性化ビジョン」が完成しました。

ビジョンでは、

- ①暮らしの不安解消（高齢世帯の除雪支え合い等）
- ②魅力みがきと賑わい創出（景観・環境整備、情報発信等）
- ③特産物のブランド化・販路拡大（越沢三角そば、

笹巻、まやのやかた、イベント等）

- ④伝統の技と知恵の伝承（そば打ち、笹巻、獅子舞や越沢音頭等）
- ⑤郷土愛と生きがいく

り（世代間交流等）

- ⑥持続可能な地域運営体制づくり（組織の再編、リーダーの確保育成等）の6つの目標を決め、その年の状況に応じて取組みを検討しています。

人口減少や高齢化の課題に直面しながらも、安心して暮らせる魅力ある集落となるよう、楽しみながら取り組んでいます。

住民1人1人に出番を

住民の得意なこと、技術や知識を最大限発揮できる「出番づくり」を意識しています。例えば、越沢三角そばのそば打ちや笹巻づくりを伝承していくために、住民が講師となり講習会を行い勉強しています。

また、そば処「まやのやかた」では、集落内の女性を中心に輪番制で調理・配膳を行っており、女性ならではのアイデアを活かしながら協力して運営しています。

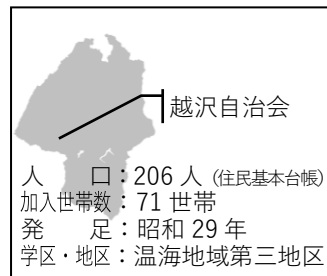
昨年の夏祭りでは、若者中心で企画・運営してもらったところ、若い世代の参加者が増え活気あるお祭りとなりました。

郷土愛と地域の絆をこれからも

越沢では昭和26年7月に大火があり、集落の8割以上が焼けました。先人たちは将来を見据えた考えのもと復興に尽力し、支え合い励まし合いながら辛抱強く苦難を乗り越えてきました。そんな中生まれた「越沢音頭」は、今も歌い踊り継がれています。郷土を愛する心と共助の精神が、越沢の確固たる絆を築いてきました。先人たちから受け継いだこの強みをこれからも大事にして、安心して生き生きと暮らし続けられる地域づくりを目指していきたいと思っています。

応援よろしくお願ひ
します！

毎年作っている
「越沢カレンダー」は全世帯に配布



越沢自治会
人口：206人（住民基本台帳）
加入世帯数：71世帯
発足：昭和29年
学区・地区：温海地域第三地区



地域の宝を守り 更なる飛躍へ

長沼地区自治振興会 会長 高橋 俊一



長沼地区に所在する昭和25年開湯の長沼温泉は、平成12年4月から第三セクターの経営に依る長沼温泉「ぽっぽの湯」に姿を変え、湯冷めのしない温まりの湯として評価を得、親しまれてきました。

ところが令和2年のコロナの感染拡大により、急激に入浴者数が減少し経営危機に陥ってしまいました。その結果、令和3年4月より、第三セクターの経営から地元関係団体で組織する「長沼温泉ぽっぽの湯運営協議会」が運営する形に移行しました。

地域の宝を守る為、自治振興会も協議会の一員となり、健康増進、集客事業を企画する立場となりました。地域の活性化を目的に発足した長沼活性化委員会でも、「ぽっぽの湯は長沼での宝あり、地域づくりの核として活用・連携して行くべき」との提言が度々出ておりました。

健康づくり事業の取組み

さっそく取組みの一步として、旧長沼小学校が平成30年の閉校までの23年間、全校挙げて取り組んで来た伝統の「けん玉」を取り入れた事業をスタート。毎月第2土曜日の15時～18時にロビーで「けん玉ふれあい体験コーナー」を開催。入浴来館者にけん玉に依る積み木遊びや、5連けん玉チャレンジで楽しんで貰い、成功者には景品を進呈しました。

また、第3土曜日には「健康けん玉教室」を開催し、初心者が健康づくりを第一目的にして、優しい技へ挑戦する場を提供しています。技能審査の時間も設け、自分の技能レベル向上の楽しさも味わって貰っています。

大きなイベントとしては、「ぽっぽの郷ウォーキング大会」を、令和3年より毎年10月下旬に開催しています。大会コンセプトは「家族や友人と、ゆっくり楽しく無理なく歩いて健康づくり」。長沼地

区に6kmのコースを設定し、名所を巡りながら途中6箇所の中継点でクイズやミニゲームにチャレンジして貰い、その結果で賞品を進呈。また、ゴール後には、ぽっぽ

の湯で芋煮の振舞いを行い、参加者の溢れる笑顔が実行委員の達成感になっています。毎年参加してくれるリピーターもあり、藤島地域に留まらず、周辺市町村からの参加者も見

受けられ、交流人口の拡大へと結びついています。

関わる人々の活力が重なり合って

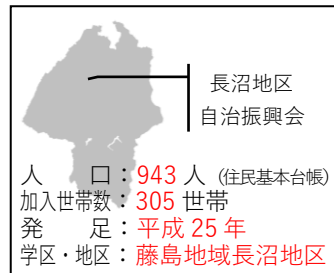
その他、自治振興会が主催・共催して行っているものとして、「わら工芸体験教室」、「ぽっぽの湯冬景色フォトコンテスト」、「長沼ゆったりカフェ(認知症カフェ)」、「デマンドタクシー利用の日帰り湯治プラン」があります。これら自治振興会の事業は、ぽっぽの湯全体の年間事業数からみれば、ほんの一部に過ぎません。

現在のぽっぽの湯は運営協議会の構成団体や、自治振興会、従業員、行政等それぞれの立ち位置や特色を生かし、様々な企画が具現化される様になってきました。企画検討に関わる人数が増えたことで、組織が新たな活力を生み、相乗効果が出ていると感じます。

地域の宝の更なる飛躍を目指して

コロナ禍でぽっぽの湯の入浴者数は、一度どん底まで落ちましたが、令和5年度にはコロナ禍前の水準に、もうひと頑張りと言える所まで戻りました。様々な取組みが一定の効果を上げてきたと言えます。

ぽっぽの湯は地域の宝と言う共通認識のもと、運営協議会の構成団体、関係者共々更なる振興策を、模索し協力して行かなければならないと感じています。



ぽっぽの郷ウォーキング大会

編集・発行／ 鶴岡市市民部コミュニティ推進課
〒997-8601 鶴岡市馬場町9-25
TEL：0235-35-1203
E-Mail：community@city.tsuruoka.yamagata.jp

藤島庁舎総務企画課 TEL 0235-64-2111
羽黒庁舎総務企画課 TEL 0235-62-2111
櫛引庁舎総務企画課 TEL 0235-57-2111
朝日庁舎総務企画課 TEL 0235-53-2113
温海庁舎総務企画課 TEL 0235-43-2111



まち活掲示板 HP